

2022年度

入学試験問題
(A日程午後)

国語

注意

- 1 「開始」の合図があるまで開いてはいけません。
- 2 「開始」の合図で、1/5から5/5まで問題が印刷されていることを確かめなさい。
- 3 解答用紙に受験番号を書きなさい。名前を書いてはいけません。
- 4 答えはすべて解答用紙の指定された解答らん^{らん}に書きなさい。問題用紙に書いても得点になりません。
- 5 解答用紙はこの表紙の裏にあります。
- 6 「終了」^{しゅうりょう}の合図で、すぐに筆記用具を置きなさい。
- 7 問題および解答用紙は机の上に置き、持ち帰ってはいけません。

雲雀丘学園中学校

一 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

その昔、「学び」とは、人から学ぶことでした。

大工に弟子入りして、カンナのかけ方を学ぶ。染物職人に弟子入りして、藍の扱ひ方を学ぶ。料理人に弟子入りして、串打ちを学ぶ。徒弟制で、熟練した親方から技術を教えてもらうのが、「学び」だった。

でもこれだと、親方が知っていることしか学べません。

① 一生懸命に修行すれば、親方のようににはなれるかもしれない。でも、それ以上や、それ以外にはなれない。「学び」が人間関係と結びついていて、親方に弟子入りしたとたんに選択肢が限りなく狭まってしまう。

こうした、「学び」と人間関係との結びつきを断ち切ったのが、本でした。

ある技術を習得したいとする。その技術に熟達した親方が死んでしまっても、本に書き残されていれば、学ぶことができる。自分が知りたことを教えてくれる人が身近にいらなくても、本があれば、学ぶことができる。

本による学びの可能性は、制限なく開かれているのです。

② 本は、学問を成立させます。

学問とは、本を読むこと、そして本を書くことだからです。

本ができた最初のころ、本はひと握りの人びとが独占していました。彼らが、読んだり書き写したり、また本を書いたりしていたのです。彼らは、書記でしたが、そのうち、学者が出て来ました。

最初、大事な本の多くは、宗教の本でした。キリスト教では聖書、イスラム教ではコーラン、仏教では仏典、儒学では五経、などの聖典がある。そのほか、ギリシャには哲学の本もあつた。そうした大事な書物を読み解くことが、学問のケンケイです。

そのうち、そうした大事な書物に関する、注釈が多く書かれるようになります。注釈があると、大事な本が理解しやすいということで、注釈を読んだり、書いたり盛んになった。本がどんどん増えていきます。

それから、注釈ではない本も生まれました。たとえば、小説。日記。キコウブン。歴史。法律。あるいは数学の証明や物理の実験記録など、宗教とは無関係に書かれた本の数々。こうした世俗の本が増えてゆき、宗教とは別の学問がだんだん発展していく。

学問は、教会だけのものだったのが、教会と関係がない学問もありになった。神学が大事になり、そのうち、法律や医学も大事だ、ということになったからです。そこで生まれたのが、それらの学問を学ぶ場所、「大学」です。

大学には、「図書館」がある。教会や修道院にも本をしまふ場所があつたろうが、教会の手で、厳重に管理されていた。それに対して、大学の図書館は、その縛りがゆるい。学問の発展のセイカである書物がナランでいて、何年経つても読める。本を書けば、本は図書館のなかで生き続ける。学生はそれらに触れて、学問の探究を続ける。そのうち何人かは、後進を指導し、自分でも本を書いて学問の発展に寄与する人、すなわち教授になる。

e 教授が学生を教え、本を書き、図書館に収蔵され、学生がそれを読み、学問を探究して本を書き、…というサイクルが連続と続いて、今日にイタルのです。

f 本ははじめ、手で書き写す写本で、高価でした。そんなにもあちこちあるわけではない。それでも図書館は、学問を志し探究の能力とイヨクのある人びとに、扉を開いている。「知の公共化」「知の自由化」が始まった。

本は本来が、公共的で、自由なものなのです。本を読むのに、著者に断らないでもいい。著者のケライや友達にならなくてもいい。勝手に読んで、勝手にインヨウして、勝手に批判してよいのです。本は、人間関係や社会関係から切り離された、知のやりとりである。風通しがいい。

私たちは本にナレていて、本があるのが当たり前だと思つているので、本のこうした性質にアラタメて注意が向きません。そのすぐれた特徴を噛みしめたものです。

本は、A して出版できるようになって、B が下がりました。図書館でなしに、C が本を所蔵するのも当たり前になりました。本の出版が普及すれば、学問も大学の外の、より多くの人びとに普及します。

公共図書館も増えました。大学に属さない在野の知識人やジャーナリスト、一般の市民が知的活動をするのに、図書館は大事です。カール・マルクスが亡命先のロンドンで、図書館にこもつて『資本論』を書いたのは有名です。レヴィストロスも亡命したアメリカのニューヨークの市立図書館で、博士論文『親族の基本構造』を書いていきます。

③ いまはウェブの時代で、電子書籍も増えました。著作権の切れた書籍を、電子化して、無料で公開するプロジェクトが、少しずつ進んでいきます。わが国も、日本語でこれまで刊行されたすべての書物を、電子化して公開する「日本図書館」プロジェクトを始めるときでしようね。

本で「学ぶ」とは、いまのべたようなひとつながりの人間の叡知の連鎖の一端に、触れるということ。昔から少しづつ時間をかけて進んできた知の自由化と民主化の流れが、この一冊の本となって届いた。私たちが手にするどの一冊の本にも、それだけの価値と苦しみと喜びがこもっているんです。

学びの基本は「本による学び」です。

人に学ぶ、ネットを駆使して学ぶ、などありますが、まず、本を読まないで「学ぶ」は始まりません。

（橋爪大三郎『人間にとって教養とはなにか』）

*後進：学問などで、先人のたどった道をあとから進んでくる人。

*連続：物事が長く続いて絶えないさま。

*在野：官職につかないで民間に居ること。

*カール・マルクス：ドイツの経済学者、哲学者。

*レヴィストロス：フランスの文化人類学者。

*叡知：すぐれた深い知恵。高い知性。

問一 ――線部 a～j のカタカナを漢字に直しなさい。ただし、必要な場合はひらがなで送りがなも書きなさい。

問二 ――線部①「親方に弟子入りしたとたんに選択肢が限りなく狭まってしまう」のはなぜですか。最も適当なものを次のア～エから選び、記号で答えなさい。

- ア 親方に弟子入りすると、大工や染物職人といった専門分野からぬけ出せなくなるから。
- イ 親方との結びつきが強くなればなるほど、親方の技術をこえることがためらわれるから。
- ウ 親方の持つ技術がすべてになり、親方をこえることや他の方法を学ぶことができないから。
- エ 親方の技術の高さを間近で見ること、それ以上のものはないと思いきんでしまうから。

問三 ――線部②「本は、学問を成立させます」とありますが、本と学問との関わりについて次のようにまとめました。(1)～(3)にあてはまることばを本文からそれぞれ()内の字数で探し、文章を完成させなさい。()。「」は字数に数えます。

はじめ、一部の人たちだけのものであった本は、おもに(1 二字)に関するもので、それらの書物を(2 五字以内)ことが学問のもととなった。その後、そういった大事な書物の(3 二字)だけでなく、様々なジャンルの本が生まれ、多くの学問が発展してきた。

問四 ――線部③「大学の図書館は、その縛りがゆるい」とありますが、「縛りがゆるい」とはどういうことですか。「教会」と比較して四十

字以内で説明しなさい。()。「」は字数に数えます。

問五 ――線部④「風通し」とありますが、これと異なる使い方のものを次のア～エから一つ選び、記号で答えなさい。

- ア この部屋は風通しがよくないので両端の窓をあけよう。
- イ グループ内の風通しをよくするためにどうすればよいだろう。
- ウ 風通しがいわが家では家族で何でも相談ができる。
- エ 私のクラスは風通しがいよいので、お互いをよく理解しあっている。

問六 [A]～[C]に当てはまることばを次のア～コからそれぞれ一つずつ選び、記号で答えなさい。

- ア 評判
- イ 独占
- ウ 価格
- エ 国
- オ 印刷
- カ 学生
- キ 個人
- ク 教会
- ケ 品質
- コ 縮小

問七 ――線部⑤「わが国も、日本語でこれまで……始めるべきでしょうね」とありますが、筆者がこのように言うのはなぜですか。最も適当なものを次のア～エから選び、記号で答えなさい。

- ア 人々が積み重ねてきた深い知恵をこえて、未来に向けて新しい技術を学んでいく必要があるから。
- イ 人々が積み重ねてきた深い知恵を誰もが手にとれるようにして、その重みを知る必要があるから。
- ウ 人々が積み重ねてきた深い知恵を一新し、新たな日本の書物を世界に発信する必要があるから。
- エ 人々が積み重ねてきた深い知恵をまとめ、世界中の人々にわかりやすく説明する必要があるから。

問八 本を読むこととインターネットで検索することについて書かれた【文章Ⅰ】を読んで、あとの問いに答えなさい。

【文章Ⅰ】

本を読むことは、自分を見つめ直すきっかけになる。本を読むことで、日頃忘れていた自分と出会うことができる。書かれている文章に刺激されて、長らく意識にのぼることがなかったような時期の自分に触れることができる。本を読むことにいると、そうした自分に触れる機会をもつことがないまま日常が過ぎていき、自分を見失うことになってしまう。本を読むことには、自分自身に出会うという効用のみならず、異質な知識やものの見方・考え方に会うという効用もある。ネットの世界では、何かを検索すると、関連する情報が自動的に選別されて出てくるし、使用者の履歴をもとに関心をもちそうな情報が選び出されて表示される。また、興味のある見出ししかクリックしないため、出会う情報が非常に偏ったものになってしまう。自分の考えに対する反証になるような情報にはあえて目を向けようとしな。興味のない情報や意見にはわざわざ目を向けることがない。

そのため、異質なものの見方・考え方に触れる機会がなく、自分のものの見方・考え方に凝り固まってしまいがちだ。ネット上で喧嘩のような誹謗中傷が目立つのも、自分と違うもの見方・考え方を理解できないし、理解しようという心構えもないからだろう。いわゆる自己中心性からの脱却ができていない。

心の世界を広げ、異質な他者に対する寛容な態度を身につけるとい意味でも、読書によっていろんなもの見方・考え方に触れるのは大切なことである。

(榎本博明『読書をする子は〇〇がすごい』)

*反証…ある主張が正しくないことを証明すること。

*誹謗中傷…根拠のない悪口を言って相手を傷つけること。

(1) ――線部「自分自身に出会う」とありますが、どのような自分を指していますか。最も適当なものを次のア～エから選び、記号で答えなさい。

- ア これからなりたい理想の自分。
- イ 客観的に見た現在の自分。
- エ いつもは自覚していない自分。
- ウ だれにも見せていない自分。

(2) 【文章I】についてA〜Cの三人が話し合っています。1 2 3 にあてはまることばをそれぞれ【文章I】から空らん内の字数で探し、書きぬきなさい。ただし、3 は初めと終わりの三字を答えなさい。()、()。「」は字数に数えます。

- A ネットで調べると本で調べるのでは何が違っているのだろう。
- B ネットは本で調べるより手軽で簡単だよ。以前調べたものと関連することも出てくるので便利だね。本は知りたいことを探すのが大変だ。
- C だからこそ本はいいんだよ。ネットでは関心のあるものばかり選んでしまうから、目にする内容が1 三字 2 五字 3 十五字以内 4 ばかりになって異質なものに出会う経験を失ってしまうことになるんだ。
- A それはよくないことなのかな。
- C 本を読まないよ 2 五字 3 からの脱却ができないんだ。
- B それはどうということなんだろう。
- A 本から得られるものは大きいんだね。

二 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

玲子は学校を卒業後三年目になる看護師で、医師の太一と共にリハビリ病院で勤めている。本文は、患者のなかじい(中島さん)と三千代が夕涼みをしているところに二人の主治医である太一と玲子加わる場面である。

太一は二人の雰囲気を引き寄せられるように、なかじいの座っていたベンチに、腰をかけた。玲子は三千代の車いすの横に立っていて、この不意に訪れた特別な夜の風景を見渡していた。三千代は、玲子たちが来る前から話の続きを、なかじいに向かって切り出した。「この怪我をする前、私、強い人間だったんです。誰かの意見に流されるのは格好悪いことだと思っていたし、誰かに頼らず、自分の足で立つて、自分で決める。誰かに委ねることは、弱い人間のことだ。」

なかじいは頷きながら聞いていた。玲子の頭に、いつかなかじいが言っていた「あの子は本音というものは内に秘めておくべきだと思っ

ている」という言葉がよぎった。「そんなんだから、引け目？ 負い目かな？ を感じたくないなって思っていました、この怪我の後、ずっと。迷惑かけているな、とか、面倒

だるうな、とか、そういうことって徐々に自分の中に蓄積されていく気がして。だから、自分一人で頑張ろう。今までだってそうだったし、それができるはずって思ってた」

三千代の視線がどこに向かっているのか、玲子からは見えなかった。ただ、その飾り気のない声が、三千代の存在をはっきりと示していた。

「でも、私、間違っていたのに気付きました。自分が強いつて思っていたのは、強いとか、弱いとか、試されたことが今までなくて、それはラ

ッキーなだけだったんだなって。今、私は、自分が強い人間なのか、弱い人間なのか、望んでもいないのに、答えを知らないといけなくなった」

ライト一つに照らされる薄暗闇の中で、玲子はその言葉を聞いていた。蛍光灯の光が作り出したその空間だけ特別に周囲から切り取られたよ

うな、本当に不思議な夜だと思った。「中島さんの奥さんがいつもいるじゃないですか。なんかいいなあって。ただいてくれるって、すごく素敵だなって。羨ましかった」

「あれは何も言わないからな」

なかじいはカラカラと笑った。「そう。私、羨ましいんだって気づいたんです。そしたら、少しわかりました。引け目を感じたくない、なんて私は傲慢なんだなって。相手

がどう思っているかなんてわからないのに、勝手に迷惑だろうとか面倒だろうって思い込んで、遠ざけようとしてた。傷つきたくないって空回

りして。私ってちゃんと弱かったんだ。きっと今でも。それを知らない方が幸せだったかもしれないけど、真実を知れたのはよかったって思うし、そんな隠しようのない弱さを持つ私は、大切な人を求めているんだなって」

太一は真つ直ぐ前を向いて、その話を聞いていた。なかじいは何度も頷くと、諭すように話を始めた。「私も、体が動かなくなるといのは初めてだ。辛いものだな。まるでこちら側は自分の体ではないみたいだ。引きちぎられたような」

二人の言葉の隙間を微かな虫の声が埋めて、その声は次の言葉が響くとそっと止んだ。「心が引き裂かれる。そういうことが実際ある。わかるだろう？ 愛する人との別れとかな。今の体の状態はそれに似ていると思う。どちらも、

できたらそんな経験はしたくないし、もし、不幸にもしてしまったとしても、うまく修復したいものだ」

(中略)

なかじいと三千代を見つめる目と、につこりと頷く彼女の表情の温かさ、その向こう側に見えた太一の姿の対照が、玲子の胸を高鳴らせた。

4 「すごいよね」

5 「え？」

「いや、患者さんは自分の過去から逃げない強さがあるでしょ。それがさ、すごいなって」

「そうですね」

通りから少し離れているだけで、ここは静かだった。太一の声はその行先を探すように、玲子の鼓膜だけを震わせると、この静かさの中にそつと消えていくようだった。

「強さって、 ってことだと思っていた」

そこにある音と光は、静かに澄んだ状態で二人の間に存在し、この夜だけ夏の過剰な昂りとは切り離された、遠い季節の夜みたいだった。「でも、違ったみたい。感情と向き合うことから逃げないことだったんだね。ずっと間違っていたな」

その自嘲の笑みは、玲子の抑えていた思いに火をつけた。それを好きって言うんじゃないの？ と言う二千代の顔が浮かんだ。

「そんな難しいことはわかりません。ただ、誰も、別に強くないんだと思います。でも、そう見せないといけない時があるんだと思います」
太一はその言葉に力なく笑って応えると、やつと立ち上がって、一度伸びをしてから空を見上げた。玲子がつられるように夜空を見上げると、仄かな星の光が二人を照らしていた。

「そうだね」

太一は一度上げた両手を自分の前に差し出すと、その手をまじまじと見つめていた。玲子は、あの日自分の優しさは見せかけだと言った太一が、玲子の知りえない何かに対し、人知れず頑なに抵抗していたのだということがわかっていった。

「前にさ」

「え？」

「この仕事、好きじゃないんですか？ って聞かれた時」

玲子は琥珀色の弓張月が自分の背中側に佇んでいたのにそつと気づき、その消え入りそうな薄さを感じていた。

「すぐに嫌いと答えなかった自分が不思議だった。きつとあの頃ならそうだったのに」

太一の声が好きなんだ。こんな時にふと玲子は思った。

「僕のね、父は、お人好しを絵に描いたような人で、いつも周りに誰かがいた。母が死んでからも、僕は結構平気だった。父と、仲間がいたから。でも、僕が大学の頃、父は交通事故にあって、広範囲の脳挫傷。脳外科の医師は『もうやれることはない』の一点張り。以降、父はベッドの上はずつと寝かされたままやせていって、関節も固くなっていって。結果、痰も自分で出せなくなって肺炎で死んだんだ。僕だってもう医療者の端くれだったし回復が厳しいのはわかっていった。でも、やれることはまだたくさんあったはずだと思った。その医者は脳の画像は見ていたけど、父のことなんて見ようともしなかった。大学でもそうだったよ。授業で習うのは病気のことで、病気になるたその後のことやその人の診方なんて教わることもなかった。そんな医療なんて、そんな世界なんてまっぴらごめんだ、そう思っていた」

いつもの他人事のように話す太一ではなく、その言葉は確かに玲子の方に向いていた。
「私、思うんです。リハビリって、こう、過去と未来をつなぐための方法であり、期間であるんだなって。過去に、大きな傷を負った人が、未来に向かってどう歩いていくのか。今まで通りには進めないのかもしれないけど、泣いたり、頑張ったり、自分の力だったり、誰かの支えだったり、全て使って立ち上がって、前より強くなって未来に向かっていくためのものなんだって」

玲子は、この偶然と必然が入り混じった不思議な夜が、自分たちの中にある不完全でザラザラとした言葉を包み込んで優しい響きにかえてくれるように思った。太一の目はもう彷徨っておらず、玲子を見つ直ぐに見据えていた。玲子がそれを躊躇せずに見返すことができたのは、きつとこの夜のおかげだと思った。

⑨「それって、患者さんだけじゃなくて、誰でもそうだし、だから、私たちは患者さんの姿を見て、学んだり、励まされたりすることがたくさんあるんだなって。私たち、幸せなところにいるんですよ、きつと」

（川上途行『ナースコール！ こちら蓮田市リハビリテーション病院』）

*それを好きって言うんじゃないの？…以前玲子と三千代との雑談の中で、玲子の太一に対する気持ちを三千代が指摘したことがあった。

問一 —— 線部① 「あの子」とありますが、誰をさしていますか。本文から探し、書きぬきなさい。

問二 —— 線部② 「引け目？ 負い目かな？ を感じたくないなって思っていました」とありますが、具体的にはどのような「負い目」を「感じたくない」と思っていたのですか。解答らんに続くように二十五字以内で説明しなさい。（、「」は字数に数えます。）

問三 —— 線部③ 「答えを知らないといけなくなりました」とありますが、どのようなことを知ったのですか。解答らんに続くように十字以内で本文から探し、書きぬきなさい。（、「」は字数に数えます。）

問四 —— 線部④ 「私、羨ましいんだって気づいたんです」とありますが、どのようなことが「羨ましい」と気づいたのですか。最も適当なもの次のア～エから選び、記号で答えなさい。

ア どのような状況であっても、傷をいやしてくれる人が自分のそばにいます。

イ どのような状況であっても、変わらぬ自分によりそってくれる人がいること。

ウ どのような状況であっても、自分の言うことを何でもきいてくれる人がいること。

エ どのような状況であっても、自分のそばで身の回りの世話をしてくれる人がいること。

問五 ——線部⑤「なかじいは何度も傾くと、諭すように話を始めた」とありますが、このときのなかじいの思いを説明したものと最も適当なものを次のア～エから選び、記号で答えなさい。

- ア 初めて聞く三千代の話にはげまされ、同じ患者として自分も病気から逃げずにがんばろうと思っている。
- イ 心を開いて語る三千代の話を受けとめ、何か自分にできるアドバイスをして力になりたいと思っている。
- ウ 今まで語られることのなかった三千代の苦悩にふれ、自分の生き方を反省すべきだと思っている。
- エ とまどう三千代を理解し、人生をともに生きるパートナーを持つことの大切さを伝えようと思っている。

問六 ——線部⑥「引き裂かれたものを無理にくっつけようとして引つ張るのは逆効果だな」について、次の(1)・(2)の各問いに答えなさい。

- (1) なかじいはどうすることがよいと考えていますか。最も適当なものを次のア～エから選び、記号で答えなさい。
 - ア つらいときはリハビリを休みながらも、自分の気の向くままに治療を受けること。
 - イ 以前と同じように生活できるという目標を持って、自分を信じて治そうとすること。
 - ウ 強引に元通りにしようとするのではなく、じっくりと傷に向き合って心と体を治すこと。
 - エ 自分のやり方で治そうと思わないで、きちんと医師の話を聞いて治療に専念すること。

(2) (1)で答えたようにすることで、どのような効果が得られますか。本文から十五字以内で探し、初めと終わりの三字で答えなさい。

()、()。「」は字数に数えます。

問七 ——線部⑦「にっこりと傾く彼女の表情の温かさ」とありますが、このときの三千代の気持ちを説明したものと最も適当なものを次のア～エから選び、記号で答えなさい。

- ア 今の自分を受け入れて、ねばり強く治療に取り組もうと前向きに思う気持ち。
- イ なかじいが元気になった様子を見て、喜びで胸がいっぱいになった気持ち。
- ウ なかじいと自分の考えが同じであることで、自信を取りもどした気持ち。
- エ 今までの自分のがんばりが周囲から認められ、ほっと落ちついた気持ち。

問八 にあてはまることばとして最も適当なものを次のア～エから選び、記号で答えなさい。

- ア 感情を出さない
- イ 感情をはっきりと伝える
- ウ 感情に従う
- エ 感情に惑わされない

問九 ——線部 a・b のことばの意味として適当なものを次のア～エから一つずつ選び、それぞれ記号で答えなさい。

- | | |
|---|---|
| <p>a 絵に描いたような人</p> <ul style="list-style-type: none"> ア ことば通りにまねしたくなる人。 イ ことば通りに話題にする人。 ウ ことば通りにイメージできる人。 エ ことば通りに受け入れている人。 | <p>b 一点張り</p> <ul style="list-style-type: none"> ア 立場を利用して見下すように言うこと。 イ 相手の言い分を聞かず、行動しないこと。 ウ 同じ意味の言葉を立て続けに言うこと。 エ 思いこんだことを頑固に押し通すこと。 |
|---|---|

問十 ——線部⑧「脳の画像は見ていたけど、父のことなんて見ようともしなかった」とはどういうことですか。これを説明したものと最も

も適当なものを次のア～エから選び、記号で答えなさい。

- ア 病気が治るかどうかの診断だけで、父に与えられる他の治療法を考えようとしなかったということ。
- イ もう治療法はないと判断し、父のもっと生きたいという訴えを聞こうとしなかったということ。
- ウ データや数値の説明はしてくれるが、家族に父の治療の仕方の説明をしてくれなかったということ。
- エ 今まで通りの治療ですませて、日々進歩する新しい医療技術を取り入れようとしなかったということ。

問十一 ——線部⑨「それって、患者さんだけじゃなくて、誰でもそう」とありますが、「それ」とは何を指しますか。本文のことばを使って

五十五字以内で説明しなさい。()、()。「」は字数に数えます。

問十二 ——線部 1～7 を説明したものととして、**適当でないもの**を次のア～エから一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 「**特別な夜**」、「**不思議な夜**」、「**遠い季節の夜**」とあるように、この日の夜はそれぞれの登場人物が抱える思いが解決へと導かれる、特別な夜になったことを強調して表現している。

イ 「太」は、本当に微動だにせず、でも、その肩の微かな上がり下がりが太一の息遣いを確認させ、玲子はいつからかずっとそれを見ていた」とあるように、細かな描写によって登場人物の心情を伝えている。

ウ 「**すじいよね**」「**え?**」とあるように、短い会話文を多く取り入れることで軽快なリズムが生まれ、死をあつかった内容でありながら、暗さを感じさせないものとなっている。

エ 「**玲子の鼓膜だけを震わせると、この静かさの中にそっと消えていくようだった**」とあるように、音や光を描写することで、まるでその場に居合わせているように感じさせる。

問一	a	ゲンケイ	原型
	b	キコウブン	紀行文
	c	セイカ	成果
	d	ナラン	並ん
	e	イタル	至る
	f	イヨク	意欲
	g	ケライ	家来
	h	インヨウ	引用
	i	ナレ	慣れ
	j	アラタメ	改め

問二

ウ

問三

1 宗教

2 読み解く

3 注釈

問四	書物の管理が厳重な教	問五	ア
会に比べて	問六	A オ	B ウ
人々が	問七	イ	C キ
る			
と			
い			
う			
こ			
と			
。			

問八(1)

エ

(2)

1 偏った

2 自己中心性

3 自分の考え方

問二

三千代

問二

う	惑	怪
	や	我
	面	を
	倒	し
	を	て
	か	、
	け	誰
	て	か
	し	に
	ま	迷

という負い目を感じたくない。

問三

ない	自分の中には
い	
弱	隠
さ	し
	よ
	う
	の

があるということ。

問四

イ

問五

イ

問六(1)

ウ

(2)

以前とく

問七

ア

問八

エ

問九 a

ウ

b

エ

問十

ア

※問六(2)別解 以前とくにつく

問十一

。	に	が	の	て	過
	向	り	支	も	去
	か	、	え	、	に
	お	強	を	自	大
	う	く	使	分	き
	と	な	っ	の	な
	す	っ	て	力	傷
	る	て	立	や	を
	こ	未	ち	誰	負
	と	来	上	か	っ

問十二

ウ

受験番号
得点